

第1回大分県長期教育計画委員会 委員発言要旨

開催日：平成27年7月1日(水)14:00～16:00
場所：ホテルキャッスル大分2F「ローザンヌの間」

NO	分類	発言
1		高校では授業における板書時間が長い。「思考力・判断力・表現力」を育成するには、双方向型の授業への転換が必要となる。そのためには、極力板書時間を削るとともに、教員にICTを使いこなす技術を身に付けさせた上で、積極的にICTの活用を図る必要がある。
2	学力	学びへの自発的な欲求や意欲につながるイマジネーション(想像力)やクリエイティビティ(創造力)などの状況について、「現状と課題」の分析から抜け落ちていないか。子どもに「付けたい力」が、点を取るためや合格させるための「思考・判断・表現力」では、結局はこれまでどおりの「点数学力」ということになる。新しい県の長期総合計画にも「クリエイティブ産業の育成」という施策が盛り込まれる予定であり、クリエイティビティはここにもつながってくる。また経済界が必要としている人材は、何度失敗してもその失敗を糧に再チャレンジしやり抜く力を持っている人材である。 イマジネーションやクリエイティビティなどの力を子どもの頃からしっかりと育成していくことが重要。
3		アクティブラーニングをどのように位置付け、活用していくのかをもう少し記述できないか。
4		限られた授業時間の中で双方向的なアクティブラーニングを行うことになると、時間的な制約から知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の双方の育成には困難が伴うのではないか。現場が困らないよう、どちらを重視するのかを県が方針を示してはどうか。
5		授業の中で知識・技能と思考力・判断力・表現力の両方を身に付けさせるのは当然である。時間的な制約は、メリハリをつけるなど授業の中で工夫する他ない。
6		アクティブラーニングは、小学校では問題解決学習という形でこれまでずっと行ってきた。知識・技能、思考力・判断力・表現力の育成については、片方を重視すればもう片方が手薄になってしまう、最終的には現場に委ねることになるのではないか。
7		体力
8	幼児期から運動習慣を確立するための取組が必要。礼儀作法や周囲への気配りを身に付ける上でも武道が効果的。近年、スポーツ少年団の加入者が減っており、スポーツ少年団の在り方も考えるべき。	
9	体験活動	例えば世界トップレベルの水泳選手と泳ぐなど、子どもたちに本物(生)に触れさせる機会の充実が必要、そのような経験が意欲を高める。
10	主権者教育	選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられたが、主権者教育についての記述が必要ではないか。
11	いじめ・不登校	最近のいじめや不登校では、SNSが原因となったものも多い。不登校の子どもがSNSでつながっているケースもあるので、子どものコミュニケーションツールとしてSNSが普及している状況を踏まえ、学校の魅力発信や子どもの学校に対する評価の仕組み、学校と不登校の子どもをつなぐコミュニケーションツール等として、SNSの活用を考えてはどうか。
12		地域における大人の偏見が子どもの人間関係に影響を与え、いじめ等につながっているケースがある。地域への啓発・取組が必要。大人がもっと子どもたちを取り巻くSNSの現状を、操作方法を含めきちんと理解する必要がある。
13	幼児教育	知・徳・体の基礎を幼児期から育成していく上では、幼稚園教育要領にあるような理念に基づく実践が重要。幼児期教育や保育の質の向上をしっかりと図っていく必要がある。
14	幼児教育	幼保一元化と言われるが、やはり幼児教育と保育は異なるものであり、この機会に考え直すべきではないか。

NO	分類	発言
15	教職員の資質能力	教員採用試験は随分改善されてきたということだが、現場からは指導力不足、メンタルダウンなど色々な話が聞こえてくる、教員選考の在り方は現状のままで本当にいいのか。また、ミドルリーダーから支えられている管理職ばかりではないと思う、管理職登用試験も同様に見直しが必要ではないか。校長のリーダーシップをより一層発揮させるため、予算等の権限移譲も考えてはどうか。
16		時代の急速な変化に伴い、教員に求められる仕事は確実に増えている。国を挙げて教員の負担軽減に取り組むべきではないか。教員の負担軽減に向けては、PTAとの連携強化も必要。
17	魅力ある高校	寝食をともにして子ども同士が切磋琢磨できる、寄宿舎を活用した特色ある高校を作れないか。寮生活は人間的な成長にも効果的である。
18	子どもの貧困	直接的に取り上げるのは難しいとは思いますが、子どもの貧困対策は学校教育との関わりも非常に大きいので、関連する項目で記述が必要ではないか。
19		各施策の「現状と課題」に現状を表す数字と達成すべき数値目標を書き込むべきではないか。
20	計画の 検証・評価	定量的な指標、質に関する指標ともに大事である。どのような状況で、どのような取組をしたら、どのような結果となったかという文脈がとれる評価・検証を策定過程からしっかりと検討しておくことが必要。
21		現行計画の達成状況を整理・分析した上で、新たな計画に反映する必要があるのではないか。